

### 森高さん、JICAボランティアでブラジルへ

東川在住の元看護師が南米・ブラジルの高齢者養護施設にJICA（国際協力機構）のシニア海外ボランティアとして渡伯することになり、6月20日、松岡市町長に出発あいさつに訪れました。



持っており、道立稚内高校衛生看護科で教えたことも。旭川医科大学精神科神経科病棟勤務を最後に定年退職して決意したそうです。「帰ってきたら、稚内の生徒や旭川医大で国際活動の魅力を伝えることが一番の楽しみ」と話す、松岡町長は「国際交流写真フェス

「ぼしのゆめ」作付け記念碑序幕

北海道米を代表する一品種、「ぼしのゆめ」の本町育成開始30周年、70%作付け宣言15周年を記念して、「ぼしのゆめ記念碑」を建立。6月16日、町内米作付け発祥の地に近い東川町農協農産物検査所（西4号北32）で完成除幕式を行いました。



東川町農協指導対策協議会（会長・松岡市町長）が設置しました。渡辺明彦上川総合振興局長、奥村正敏道立上川農業試験場長、板谷重徳ホクレン農協連合会副会長、川辺ひろみコープさつぽろ旭川築委員長ら農業関係者が出席しました。

1988（昭和63）年に上川農業試験場で育成開始して以来、30年目に当たります。1997（平成9）年に一般作付けが始まり、「ゆめぴりか」が登場するまで道産米エースでした。「きらら397」と「あきたこまち」で品種改良し、北海道米のうまさを広める転換となった品種。

ティバルが始まって、写真に興味があればブラジルの高校生を招待することも可能。日本語学校も出来たので、学びたい留学生を受け入れることもできる」などと提案しました。

### 交通安全町民大会

5月31日、東川建設業協会（藤田裕三会長）、東川町交通安全協会（米田保会長）がそろって建設業協会安全大会、交通安全町民大会を開き、業務の安全励行、事故ゼロの1年を誓いました。

町内事業所の職場代表、自治振興会、町内会、各団体の代表ら約150人が

### 恒例、春の暮らし楽しくフェスティバル

5月27、28の両日、キトウシ森林公園で第62回くらし楽しくフェスティバルが開かれました。春は衣類、雑貨のリサイクル市、花と野菜の苗販売が人気。トマト、なす、ピーマン、唐辛子、ししとうなど野菜の苗とあでやかに庭を彩る花の苗を買い求めて、朝一番から来場者がいっぱい。



韓国ピョンチャン（平昌）五輪クロスカントリースキーのタイ代表選手を目指して東川でスキー強化トレーニングに励んでいるナツトさん（ペッシン・シャイ・パタラ）も旭川福祉専門学校日本語科の台湾、ベトナム、

出席しました。米田会長は「死亡事故ゼロ千124日が長く続くことに心を一つにして進めたい」とあいさつ。

松岡市町長は「交通安全故ゼロは毎日の積み重ね。家庭から、地域から、学校から、職場から、全町挙げて取り組まなければならない」と訴えました。



旭川東警察署、稲津隆明交通第一課長は、油断が招いた死亡事故の実例から交通事故の悲惨さを改めて取り上げて講和し、東川第二小児童を代表して山本潤さん（6年）、東川中生とを代表して高橋彰磨さん（3年）の2人が交通安全の願いを込めて作文を発表しました。

### 新緑巡って初のキトウシサイクリング

6月11日、キトウシ振興公社はキトウシ森林公園をスタート、ゴールに、キトウシサイクリングを開き、400人が新緑の忠別ダム湖畔、忠別川畔サイクリングロード、町内市街地を巡りました。



最高気温15度と4月下旬並みに肌寒く、天人峡手前では土砂降りの雨に見舞われる悪天候。しかし夫婦で参加して天人峡折り返し地点で先着してパートナーを待っていた男性（52）は「もったきつい上りと覚悟してきたけれど、つらくなかった。ものすごい雨に遭ったけれど楽しい」と肌

後の焼き肉、ジンギスカンに舌鼓を打ちました。コースはキトウシ森林公園をスタート、ゴールに①「忠別湖畔―天人峡」往復の62キロ②忠別ダム堤体で折り返す30キロ③ひがしかわ道草館を往復する市街地11キロの3コース。

6月11日、ゆめ公園サッカー場でプロサッカーチーム・北海道コンサドーレ札幌が少年サッカー教室を初めて開きました。チーム主将の宮沢裕樹（MF）、副主将の菊池直哉（DF）、背番号9のエースストライカー、都倉賢（FW）の主力3選手がそろって来町しました。会場には東川サッカー少年団、発足



したばかりのコンサドーレ東川（U-12）メンバー、隣の旭川、東神楽からサッカー少年団員合わせて約50人が集まりました。コンサドーレ札幌トップチームの沖田優コーチ、コンサドーレ